

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-20 □支援部門		水産業振興運営事業				
主管課	産業振興課	関連課					
分野名	産業振興						
目標 (目標値)	市民生活に密着した形での沿岸漁業の振興 つくり育てる漁業、資源管理型漁業等による漁業経営の安定及び後継者の育成						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	3,532	3,880	3,427			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	3,532	3,880	3,427			
	人員配置数	0.9人	0.9人	0.9人			
	人件費(千円)	8,241	8,267	8,659			
事務事業運営経費	協働のパートナー						
	総事業費(千円)	11,773	12,147	12,086			
	市民1人当りの経費(円)	66	69	68			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名	鎌倉漁協	腰越漁協	小坪漁協			
	年間水揚量	166t	178t	131t			
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
直売事業の開催回数	◎	目標値	30回	30回	30回	30回	30回
		実績値	28回	28回			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統縮小 E:廃止・休止
水産業振興運営事業	3,532千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	■A □B □C □D □E
	事業の概要	水産関係団体との連携を図るとともに、栽培漁業の推進による漁業経営の安定化を図るため、漁業協同組合が行う栽培・養殖事業への補助金の交付を行った。また水産業振興施策検討のため、鎌倉沖海域の水産資源調査を初めて実施し、水産資源の状況把握を行った。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	サザエの種苗放流など養殖事業では、特に鎌倉地区において漁獲量は伸びているものの、生簀等の設備がないため安定的な出荷ができていない。			
課題解決のための取組	漁業者への現状の聞き取りや、今後の進め方について協議を行い、今後も継続して検討を進めていく。			
未解決の課題	シラスやワカメ以外の漁獲物の多くは市外の市場へ出荷されており、市内への流通が少ないことから水産業に対する市民の認識が充分とはいえない。			
今後の方針	23年度に実施する水産業に対する市民アンケート調査結果を活用し、市内への流通・販売の仕組みについては漁業者及び地元水産販売業者等の関係団体と検討していく必要がある。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了 課長名 花上 和也

